

第29回国際応用心理学会に参加して



目で見る
海外論文発表

大工 泰裕*

Valuable experiences at 29th International Congress of Applied Psychology

Key Words : psychology, applied psychology, corporal punishment in school, coaching, extracurricular school sports setting

<参加会議名> 29th International Congress of Applied Psychology

<開催場所> モントリオール、カナダ (ケベック州)

<渡航期間> 2018年6月25日～7月2日

<発表タイトル> Victims Become Supporters: The Past Experience of Direct Corporal Punishment in Extracurricular School Sports Settings Predicts a Tolerant Attitude Toward the Punishment.

この度は、International Congress of Applied Psychology (ICAP) への旅費についてご支援いただきましたこと、この場をお借りし御礼申し上げます。

ICAPは4年に一度開催される応用心理学についての大規模な国際会議であり、今年はカナダのモントリオールで6月26日から30日に渡って開催されました。大都市での開催だったこともあり、北米、ヨーロッパ、アジア等から大勢の研究者が参加し、心理学の応用可能性について議論を交わす非常に貴重な機会となりました。

私は、今回、なぜ運動部活動での体罰が肯定されるのかを調べた調査について発表しました。内容が日本での運動部活動に関する話だったため、日本人以外の方々が理解しやすいよう、背景にある文化についての説明を丁寧にするように心がけました。初めての口頭発表ということでかなり緊張しましたが、

結果的に多くの方々が熱心に聞いてくださり嬉しく思いました。

他の研究者の発表については、応用心理学の学会ということもあり、現場で介入を行った研究が多く見られました。私が話を聞いて印象的だったのは、運動を促進するための介入プログラムを作り、その効果を検証するというものでした。その研究では高齢者に実際にプログラムを体験してもらうことでプログラムの効果を検討しており、実験室のみならず現場に出て研究を行うという姿勢は、応用心理学を志す者として学ぶところが多くありました。

会議中のセッションで海外の研究者と交流できたことはもちろん、日本から来られていた複数の研究者と交流を行うこともできました。この大会で得られた知識やネットワークを活かし、今後とも研究活動を行きたいと思えます。



Figure 1
大会議室でのセレモニーの様子



Figure 2
企業ブースおよびポスター会場



Figure 3 申請者の発表の様子



Figure 4
東京大学、上智大学、慶応大学の研究者との交流の様子



* Yasuhiro DAIKU

1992年12月生まれ
大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程 (2017年)
現在、大阪大学大学院人間科学研究科
社会心理学研究分野 博士後期課程2年
修士(人間科学) 社会心理学
TEL: 06-6879-8040
FAX: 06-6879-8040
E-mail: mail@yasuhirodaiku.com